

令和3年度 第2回羽曳野市子ども読書活動推進委員会会議録（要録）

日 時： 令和4年3月22日(火) 13時30分～14時50分

場 所： 羽曳野市役所 A棟中東会議室

出席者：(委員) 奥川委員、河津委員、実川委員、菅谷委員、高崎委員、南里委員、村尾委員、森委員、脇谷委員

(教育委員会) 森井教育次長、藪中社会教育課長補佐

(事務局) 奥野陵南の森図書館長、宮下主幹、岩佐（再任用）

欠席者： 金本委員

傍聴者： なし

次第

1.開会

教育次長あいさつ

事務局より会議を録音して会議録の要録を作成し、WEB及び中央図書館で紙ベースで公開することを報告

委員紹介、事務局紹介

2.議事

会長あいさつ

第3次羽曳野市子ども読書活動推進計画の進捗状況について

令和4年度図書館課の新規事業（子ども読書活動推進関係）について

3.閉会

報告

第3次羽曳野市子ども読書活動推進計画の進捗状況について

進捗状況整理表により、まず子ども読書活動推進のための取り組みについて、1.家庭での読書活動の推進、2.地域での読書活動の推進、3.図書館での読書活動の推進、4.学校・園での読書活動の推進の各項目について、続いて計画の進め方について、1.推進体制の整備、2.関係機関の連携の項目について、関係課の回答を集約して事務局より報告した。

令和4年度図書館課の新規事業（子ども読書活動推進関係）について

1.古市図書館の、児童・ヤングアダルト向けサービスを重点的に実施する図書館としての運営、2.読書手帳・図書館アプリ・読書マラソンなど、3.多文化サービスの実施に向けた学校・学校図書館との連携の各項目について、委員より報告した。また、電子図書館の導入を計画していることを報告した。

意見等

・(4か月児健康診査時に提供している)図書館利用のPRグッズとはどういうものか。

→赤ちゃんにおすすめ本のリスト、図書館利用啓発のちらし、図書館利用申込書、図書館利用案内。

利用申込書は色をピンク色に変えていて、健康診査を通じて申し込みに来られたことがわかるようになっている。ブックスタートについての新聞記事なども入れていたが、内容が古くなっているので変更を予定している。利用案内も内容が変わるので見直す。

・WEBサイトの閲覧数は把握されているか。

→具体的な数値は把握していないが、以前はどのページの閲覧数がどれだけかというのがあり、図書館が一番多いと聞いていた。

- ・ブックリストの配布部数の 80 部は適切か。

→資料の「80 部」は令和 2 年度の数値だが、今年度は 400 部に増やしている。配布したもの減り方など状況を見ながら部数を変えている。図書館だけでなく学校図書館でも配布いただいている。

- ・ブックリストの効果を検証してはどうか。掲載した本がどれくらい借りられたとか。一方的に大人が薦めても子どもの要求とズれている場合がある。

- ・ブックリストに載せた本の利用状況の統計もとれるなら、データも集まって改善もできると思う。

- ・図書館の新規事業で読書マラソンなどでは到達度による表彰や賞品などを考えているのか。

→今のところ、システム内で自分の目標に達成したらメダルが出たりするものだが、今後の活用として、自分の目標でなく他の人と競った結果、手づくりの商品を差し上げるような運用も考えたい。

- ・「気は心」、子どもにとってちょっとしたうれしいものがあれば効果があると思う。

→司書が手づくりのしおりなど作るの得意にしているので、そういうものをもらってもらえたと思う。

- ・電子図書館サービスについて、子ども用のコンテンツを把握されているか。電子絵本などがあるが、絵本の効果とは、読んであげる人と聞く子どもがいて心の交流などがあり、コミュニケーションツールだ。YA などはまた別だと思うが。

→数は把握していない。読み上げる絵本があることを承知しているが、読み聞かせをしてくれる人の心の交流の代わりになるものでないと理解している。あくまで、コロナ禍で来館しにくかったり、習い事などで図書館に来る時間がとれない子どもたちなど、図書館をなかなか利用できない人も本を楽しめるサービスと考えている。先行図書館も調べて子どもたちが活用できる方法を検討したい。

- ・図書館と古市小学校の連携についての進行状況は？

→明日校長先生とお話しする予定。

- ・古市小学校司書として考えていることはあるか？

→これまで長期休暇の際に古市図書館の利用を案内しているが、今後の連携を楽しみにしている。

- ・児童全員にタブレット端末が配布されているが、紙の本の大切さを感じる一年でもあった。今後、古市図書館と連携していろいろやれたらいいと思う。

- ・「学校訪問・ヒアリング」とは具体的にはどういうことをされているか。

→2 学期に各学校をまわった。目的は大きく 2 つ。(1) 管理職の先生に学校全体の読書活動の取組状況を確認する、司書配置の効果を聞く。(2) 図書館司書に学校の読書活動の取組と成果について話を聞く、環境整備面から困っていることなどを聞く。

中学校では曜日によるが、司書を 2 校に配置しており、訪問して話を聞いている。

- ・ヒアリング結果は発表しているのか。

→課内で図書館整備のための資料としている。また、各校に、他の学校での取組を紹介している。

- ・司書のいない中学校に小学校の司書が整理に出向くことはあるのか。

→中学校に行くことはないが、中学校の図書館を運営されている先生から相談があったときに整理の仕方や廃棄の基準などを伝えしており、運営の力になれていればと思う。

- ・第 3 次計画策定時のアンケートの中で、中学校で図書館からの支援がほしいという回答があったが、司書がいない中学校ではだれが支援するのかということは公共図書館として考えていかなければならないことだと思う。

- ・幼稚園は毎日絵本の読み聞かせをしている。(コロナ禍で中止していたが) 秋からボランティアの方におはなし会に来ていただいている。誉田中学校区で幼・小・中で連携して朝読をやろうということで、幼稚園でも取組を始めた。古市幼稚園は、古市図書館の隣だが、これまでなかなか図書館には行けていなかった。新年度、古市図書館と学校等との連携に、古市幼稚園も参加させてもらいたい。
- ・子育て支援センターでも緊急事態宣言以外はボランティアの方におはなし会に来ていただき、教材作りの参考にした。図書館で掲示されているおすすめ絵本を借りてきて保護者に利用してもらったりしている。子育て支援センターに来た帰りに図書館に立ち寄って本を借りて帰る、という流れができたらいいと思っている。
- ・おはなし会は健常者対象のようになっているが、手話通訳の方に協力していただくことも文庫連絡会では考えている。
- ・図書館でのおはなし会が多目的室から広い場所を提供していただけてよかった。少しずつ元にもどっていけばと思う。
- ・高齢者施設を借りて文庫をやっているので、今年度全く開催できなかった。閉鎖空間でなく、屋外で絵本の広場などをできないかと考えている。
- ・子どもたちが、フェイクニュースに惑わされず、正しいものを見極め、判断する力、生きる力を身につけるためにも読書は必要。
- ・コロナ禍で(おはなし会の)講座の開催時期が難しかったが、開催できてよかった。参加した10人のうち、4人が入会してくれている。
- ・コロナ禍での図書館運営は難しい。子どもの読書も心にゆとりがないと困難だ。そんな中で会議を開いて報告してもらったのはよかったです。読書離れの社会の動きは早くなっている。目に見える成果はすぐに出ないが、読書がいいものという確信をもって努力し続けていくことが大切だと思う。会議の場を持つて次につなげていくことは大事なことだ。